

惣津前課長畜産10年の歩み

4月20日、晴天の霹靂というか、あまりにも突然であり誰れしも考えていなかった惣津畜産課長が監査事務局長に栄進された。長い間慈父とも頼み、親しんできた人であっただけに一入のものがある。あえて課長と呼ばさしてもらおうが課長にとっても感慨無量のものがあったことと思う。全国的に名だたる課長であっただけにポツカリと空洞のあいたといった感がしてならない。課長は九大を出られて本省関係南方総軍中佐として活躍、戦後月寒牧場長から本県課長として赴任され、この間洋の東西をとわず歩いておられる博識の方である。

今課長赴任以来十年余の残された業績を臉にうかべて見よう。

数多い足跡の中、主なものをあげてみると、課長は常、日頃農業技術の進歩は科学に立脚したものであるという考えで、試験研究機関の充実を図られた。即ち従来の形、内容の種畜場ではいけないという考えで岡山種畜場の改組拡充を行なわれた。酪農は農業経営のホープであるという考えから津山畜産農場を酪農試験場に外形内容共に一新され、蒜山にはジャージー地区酪農振興のために同分場の設置、又養鶏は岡山市に新たな考えにたった養鶏試験場を更に和牛では千屋種畜場を和牛試験場にそれぞれ改組、設立が行なわれたし、種牡牛の集中管理と人工授精の万全を期するため一宮に岡山県人工授精所の設立が行なわれた。

施設整備については畜産発展のかげの大きな力となっている家畜保健衛生所が、現在28に及んでいるが23年以降に設けられたもの28を数え、立派な実が結ばれている。

次に酪農振興であるが25年当時の乳牛は3,000に満たなかったものが今日1万8,000頭（生産乳量3万8,000トン）となっており、6倍を越している。この伸長は集約酪農地にジャージー種が入れられ美作地域集約酪農の指定が転機となったことはいなめない。特に蒜山の地区は中心工場より遠隔であることで指定に入れることがむつかしかった。当時惣津廻廊と呼ばれ今も語り草となっている。又北酪危機の際これが再建につくされた功績も又大きなものがある。

続いて32年には備中地域33年には旭東集約酪農地域と美作集約酪農の地域拡大の指定となりこれは3地域63市町村に亘っている。全県指定にも近い集約酪農は関西以西ではない。これが建設のため酪農経営の合理化策として優良牧草の増産、乳質の改善、優良種牡牛の導入（米国より輸入）が行なわれ酪農の危機とさわがれた33年には全国に魁けて消費拡大運動が行なわれ24年1月から3ヵ月間、生産者団体を通じ学童が飲めるよう県が生乳の買いあげを行ない、これによって乳価3円の値上げとなり生産者の酪農意欲の低下を防ぐことができた。又酪農振興は適正乳価を保つことでもある。そこで生産者の利益を守るため県酪連を設立し一応共販体制を整えられたことも業績の一つといえる。

第3には肉畜の振興である。肉牛の需要が伸びている現状に対して経済的な飼育と枝肉市場への共同出荷を進められているが一方家畜取引法による家畜市場の整備は全国に魁け和牛取引の近代化が進められてきているし近代的食肉市場を岡山市に設立の構想が進められつつある。この10年の歩みは本県畜産の礎がうち建られたといっても過言でない。課長は正義感の強い人であった。困難な仕事にぶつかるとよく考え熱情をもってあたられた。生乳買上げについて課長は正月2日天守閣で考えた上の断行と某誌が記していた。

我々は新課長を中心とし残された立派な業績を守り更に大きくよいものにすることこそ課長に報ゆる道であろう。局長への御栄進を祝福すると同時に御健康に留意されて益々御活躍されんことを祈って止まない。